

## 「第10回記念国際ようせいフォーラム2004」レポート

1. 特別講演 中国伝統身体技法の発展
2. 特別講演 北京オリンピックの申し込み背景と展望 上海体育学院 徐本力教授の講演

日本大学 和田 勝

当初、私共は「北京オリンピックの展望について」ということもあり、競技力の強化について大いに期待していた。しかし、講演のほとんどはオリンピックがもたらす経済効果について話されたのである。

以下にその内容について報告する。

### 1. 北京の二回に渡ってオリンピックを申し込んだ背景

2004年がダメになったのは意外であった。香港がらみで英国がうまく動かなかったからである。しかし、'04の失敗はかえって良かった。それは、今国民が金を出してもやりたいという気持ちになっているからである。

2008年は中国にとって有利となった。

- ・中国の外交と国力が迅速に増強しており、08年オリンピックは最高の国際的環境である。アジア大会も北京市民が燃えた'08を必ず成功させる。'04の時よりも状況がよく今は国民が金を出さなくても（国が金をすべて出す）'08は比べものにならず良くなっている。
- ・中国の経済的発展は、中国がオリンピックを開催する実力を大いに高め、自信を持って08年オリンピック大会を史上最も成功的な一大オリンピックとして成し遂げることができる。開放改革の政策によって今は経済力が上がりいい状況である。
- ・中国の市場経済と近年迅速に発展してきたスポーツ産業は、オリンピック大会を担って更なる経済効果を得られる土台となった。今は成功させるだけでなく経済力を高めることにつながる。この様な状況で開催できるので一層良いであろう。
- ・中国の国民の生活水準が高まり、オリンピッ

クに高い関心を持ち、多くの国民の理解と支持を得ることができた。国民全体の関心度が高く全国民の支持（90%以上）を得ている。

- ・シドニーからアテネオリンピックにかけて、中国の競技スポーツレベルは遙かに高まり、08北京のオリンピックで更なる成績が期待できる。アテネは国民の45%が外遊しており、会場の観客が少なかった。しかし、'08はそのようなことはない、何故なら今年は夜中でも国民が観て盛り上がっていたからである。'08で成績が残せなかったら大変である。'08は中国が第一の国になっているであろう。結果として'04でなく'08となって良かったと思う。

### 2. 北京オリンピックが北京市と我が国の発展に与える影響

- ・1964年東京オリンピック後、“オリンピック景気”が観られ、その後日本は20年足らずのうちに世界の発展国となった。
- ・1988年のソウルオリンピックは、韓国の経済を飛躍させアジアの経済強国となり、オリンピックから10年たたない内にOECDに加入した。
- ・1992年の25回バルセロナオリンピックは、スペイン国と開催都市バルセロナの発展に影響を与えた。
- ・予測として北京オリンピックの開催は、我が国を15～25年以上発展させるし、北京市を25～30年以上発展させる。
- ・第23回ロサンゼルスオリンピック後から、歴代オリンピック開催国は、安定した高額収入と利益が見られた。
  - ソウルオリンピックは30億ドルを投入して、4.97億ドルの収益を獲得した。
  - アトランタオリンピックは2億ドルの

収益を獲得した。

- ・その中で一番大事な収入は、テレビ中継放送権である。この巨大収入は、全収入の40%を占めており、だんだん多くなっていく傾向である。

- ・北京オリンピックの総収入予算は16.25億ドルで、そのうち投資支出は16.1282億ドルで、収益は0.16億ドルである。

原因：一つは新しい競技場の建設費用が多い。二つめは予算自体が多めに余裕を持っている。だから、実際収入より多くなる可能性がある。

3. 北京オリンピックは巨大な商いチャンスを与える

北京はこの7年間、大規模にオリンピックに関連する経済建設を行う。

- ・オリンピック基礎工事に16億ドルを投資する。

- ・スポーツ施設建設に30億ドルを投資する。

- ・交通道路建設に200億ドルを投資する。

- ・環境保護に122億ドルを投資する。

- ・情報・通信業に30億ドルを投資する。

- ・北京市だけオリンピックに投資する金額は2800億人民元で、64%は基本建設に使う。

時間が足らなくなり、4.5.については具体的な話まで行かなかった。

4. 北京オリンピックを契機に我が国のスポーツ産業が迅速に発展し、主幹性産業となる。

5. 北京オリンピックは中国の競技スポーツを高速に発展させる。

以上が話された内容で、ほとんどは中国の経済効果についてであった。

今後の4年間、中国はどのようにして各競技の強化対策をするのか大変興味あったがこのことには一切触れなかった。

### 3. 日本における健康づくりと病氣治療に関して《民族舞踊と野口整体》

発表者 国際基督教大学 近藤洋子  
早田千家子(全日本太極拳協会福島県支部)  
金森 泉(東京女子大学)

近藤洋子先生の発表は、初めてお聞きするような内容がほとんどであった。

特に、地方で綿々と受け継がれてきた舞踏の中に健康法が内在しているという考察には、納得すべき点が多かった。また、野口整体体操に関しても初めて耳にする内容であり、先生御自身の体験に基づかれた発表も、大変興味深く拝聴させて頂いた。

中国にも舞踏を基とした健康法で木蘭拳・花架拳が在る。こちらは舞を基として新たに作られたものであるが、日本では舞踊は舞踊のまま残った。そこに、日本の伝統舞踊に関する考え方が有るように思えた。一見穏やかに見える舞踊も、長時間舞うとなればかなりの体力・持久力を求められる。それは一朝一夕に身に付くものではない。舞を奉納する選ばれた者達は、普段のトレーニングが必要となってくる。奉納という神聖な行事に向け、自然と身体を気遣い、ひいてはそれが健康づくりに繋がっていったのだろう。新たに健康法として再編するのではなく、ごく自然に舞踊として残った事に意義があるのかもしれない。

私の地元では 30 年ほど前から「スポーツ民謡」というレクリエーション種目が盛んに行われている。初期は伴奏として民謡だけを使用していたが、最近では演歌も使用し、発表会や講習会も盛んである。基本の動きは単純な動作の繰り返しで 30 分もあれば覚えられるのだが、そこからのバリエーションがあるらしく、中高年の女性を中心に 500 名以上の会員が週に一度の練習を楽しんでいる。しかしそこには神聖さは存在しない。あくまでもレクリエーションであり、舞踊ではない。

日本人にとって民謡は聴くだけのものではなく、動きを促すものなのかもしれないと思いながら近藤先生の発表を伺った。

ただ残念だったのは、中国側の出席者があまりにも少なかったことである。夏休み中という事情もあったのだろうが、出来ればもう少し多くの中国人に日本の舞踊を知ってもらいたかった。好機を逸したことが残念であった。(早田千家子)



#### 発表 民族舞踊と野口整体

多くの土地での舞踊に共通性があるということや、触れることを強く意識した整体によって治療を行い、施した側も元気になるというお話がとても印象に残っています。近藤先生が実体験によって気づかれたということで、説得力があり、自分もそのような体験をしたいと強く感じるものでした。また、近藤先生の踊りはとてもしなやかで、特に手の動きに見とれてしまいました。日本の民族舞踊を身近で見ることができたことは初めてだったので、生活の場において古くから踊られている様子も見てみたいと感じました。(金森 泉)